

1. 件名：「泊発電所3号機の地震等に係る新規制基準適合性審査に関する事業者ヒアリング（131）」

2. 日時：令和3年12月8日（水）16時00分～18時00分

3. 場所：原子力規制庁9階耐震会議室

4. 出席者（※：テレビ会議システムによる出席）

原子力規制庁：内藤安全規制調整官、熊谷管理官補佐、佐口主任安全審査官、海田主任安全審査官、谷主任安全審査官、西来主任技術研究調査官、松末技術参与、磯田係員、道口主任技術研究調査官

北海道電力株式会社：藪執行役員 他7名※

5. 自動文字起こし結果

別紙のとおり

※音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

6. 提出資料

<<本年12月1日に受取済み>>

- ・泊発電所の基準津波に関するコメント回答（日本海東縁部に想定される地震に伴う津波）
- ・泊発電所の基準津波に関するコメント回答（日本海東縁部に想定される地震に伴う津波）（補足説明資料）

時間	自動文字起こし結果
0:00:03	原子力規制庁谷です。ヒアリングを始めたいと思います。今日のヒアリングの内容としては北海道電力株式会社の泊発電所の基準津波に係る関するコメント回答ということで、日本海等縁部に想定される地震に伴う津波ということで、
0:00:21	先日 12 月 1 日に提出いただいている資料でヒアリングを行いたいと思います。まず
0:00:30	資料の内容のほうの説明をお願いいたします。
0:00:36	はい、北海道電力の松村です。ええと、泊の基準津波のうち日本海等縁部に想定される地震に伴う津波、こちらについては本年 9 月の審査会合のコメントとそれから 10 月 28 日のヒアリングを踏まえまして、
0:00:53	資料修正させていただきましたので、御説明をいたします。説明はアオキから説明時間は 30 分程度を予定しておりますよろしくをお願いいたします。
0:01:05	北海道電力の青木から説明させていただきます。本日資料のほうに種類を用意しておりまして、本資料と補足説明資料の 2 種類ございます。今回の説明では本資料のほうをメインに説明させていただきます。
0:01:20	御説明については前回の 10 月 28 日のヒアリングからの主な変更点ということで要点を絞って説明させていただきます。
0:01:30	早速ですがページ番号三番、3 ページをお願いいたします。
0:01:36	こちら目次となっております、前回から章立てとして若干変更がありますのでその点について説明させていただきます。
0:01:44	まず、2.1 章に検討方針、2.8 章にまとめを記載がわかりやすくなるようにという観点から追加してございます。
0:01:54	また、本日の説明については 2.3. 1 章の想定波源域の東西方向に関われ設定について当続いて 2.5. 4 章の敷地北側防潮低の損傷による上げ。
0:02:10	前提の確認を 3 点目として、2.7. 2 章の貯留堰を下回る時間の確認、あと最後に、2.7. 4 章、断層パターンを東へ移動の検討といったものを大きく 4 点について説明させていただきます。
0:02:26	とまた 2.7. 4 章の断層パターンを東へ移動の検討については前回のヒアリングから追加した資料となっております。
0:02:36	ページですが 58 ページをお願いいたします。
0:02:46	こちらでは 2.3. 1 章の想定波源域の東西方向のまとめに関するスライドになります。
0:02:54	テキストボックス中の一つ目のマル。
0:02:57	想定波源域の東西方向位置については、南北方向の検討を踏まえ、想定波源域の支部は地震本部における北海道南西沖の評価対象領域で考えている

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	というところから北海道南西大きな評価対象領域の東端をもらうことができる位置に設定しております。
0:03:17	このスライドに下にあるスライドの下にあります図で言うところの赤い枠を想定波源域と設定しております、こちらを北海道南西域の東端に合うような位置に設定してございます。
0:03:31	続いて上段のテキストボックスの一方と書いてあるところ以降日本海等縁部の範囲のうち地震本部における評価対象領域の北海道製法大きい及び地震空白域の領域において想定波源域よりも東側に位置する範囲がございませう。
0:03:50	こちら下の図で言うところの青い矢印で示したパラメータスタディで網羅する範囲というところになってございませう。この範囲については、波源位置が泊発電所に近づくことで、津波性が大きくなると考えられるということ踏まえまして、
0:04:05	以降に実施するパラメータスタディにおいて想定波源域の東西方向位置よりも広い範囲を検討することによって、その当該範囲を網羅する検討を実施するという流れにしてございませう。
0:04:20	続いて 100 ページをお願いします。
0:04:30	500 ページではパラメータスタディのフローについての説明のスライドとなります。
0:04:36	左側のテキストボックスの二つ目のマル。
0:04:40	パラメータスタディについては、概略と詳細の二段階で実施するものとし、概略パラメータスタディは津波水位に対して支配的因子、詳細パラメータスタディは津波水位に対して従属的因子の位置付けと考えております。
0:04:56	ここで東方向位置に関する検討としまして、地震本部における評価対象領域の北海道性法規及び地震空白域の領域において想定波源域よりも東側に位置する範囲がございませう。
0:05:10	この範囲については、北海道南西置き直し部という位置よりも北方に位置することを踏まえまして、パラメータスタディによる詳細検討により網羅すべき範囲と考えております。
0:05:23	以上を踏まえて当該範囲を網羅するように、波源モデルを配置した検討を詳細パラメータスタディのステップ 3 の波源位置の検討において実施することとしております。
0:05:36	どこまでが想定波源域に関する修正内容の説明となりますと次の論点として 115 ページをお願いいたします。
0:05:49	どこで断層パターン 5 に関わる説明内容というところで説明させていただきます。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:05:55	この 115 ページについてはStep3 波源位置の検討方針に関するスライドとなっております。
0:06:02	この箱書きの中段にございませ東方向位置の変動幅についての説明です。
0:06:10	概略パラメータスタディStep1-2 とSTEP2-2 のうち最大ケースは、
0:06:16	断層パターン 6 と断層パターン 7 と断層パターン 1 の 3 種類は選ばれております。
0:06:23	この内断層パターン 6 については、水位上昇側の最大ケース。
0:06:28	断層パターン 7 については誠意下降側の最大ケースになっております。
0:06:34	ここで断層パターン 1 については、防波堤を損傷した地形モデル①の 3 号炉取水口上昇側最大形成のこの 1 ケースのみで選定されている断層パターンというところで、この段差パターン 1 が選定されております。
0:06:51	続いて、傾斜角 60° の断層パターン断層パターンごと 8 については、傾斜角 30° であれ断層パターンの 6 と 7 と比較しまして正変動量が小さく、
0:07:05	当日本海当面部の範囲の東端網羅できる位置に移動させたとしても、泊発電所への影響は小さいと考えております。
0:07:14	この内容についてはまた後ろのページで説明させてございましていただきます。
0:07:19	以上を踏まえると、波源位置を東へ移動させた検討として保守的な検討になると考えられる断層パターン 6 と段差棚をステップ 3 の
0:07:31	日本回答縁部の東端を網羅できる位置にある。
0:07:35	移動させる検討対象というふうなものにすると考えております。
0:07:41	続いて 116 ページをお願いいたします。
0:07:46	こちら先ほど説明しました概略パラメータスタディの最大ケースの断層パターン 6 と断層パターン 7 と断層パターン位置について東西方向位置の分析を行ったスライドとなっております。
0:08:04	このうち、左側、一番左なものが水位上昇側というところで断層パターン 6 について整理したものを
0:08:12	中央のものが、水位下降側としまして断層パターン 7 に着目して整理したものを
0:08:18	一番右側が防波堤の損傷考慮した地形モデル①の 3 号炉取水口上昇側というケースのものに着目して段差パターン 1 について整理したものを。
0:08:29	まとめております。
0:08:32	こちら説明としましては上段のテキストボックスの三つ目のマル。
0:08:38	断層パターン 1 防波堤の損傷を考慮した地形モデル①の 3 号炉取水口上昇側で選定された断層パターン 1 についてはと東に移動させた場合に水位変動

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	量が小さくなるというところが一番右側のグラフから読み取れますので、この断層パターン1については、東へ移動させる検討
0:08:58	その対象外ということを考えております。
0:09:02	続いて117ページをお願いいたします。
0:09:07	こちらのスライドについては、断層パターン6と7と1についてそれぞれ傾斜角の影響を確認したスライドとなっております。
0:09:18	上段のテキストボックスの三つ目の丸、傾斜角60°の断層パターン断層パターンごと8については、
0:09:26	東に移動日本海等Mの東端を網羅できる位置に配置しても、泊発電所への影響が小さいと考えられるというところから、これらは検討対象にしないというようなふうにまとめてございます。
0:09:40	もう少し具体的に言いますと、
0:09:42	そう一番左の水位上昇側のグラフでいうと断層パターンごと力を比較した場合に、傾斜角30°であれ断層パターン6のほうが正変動量が大きくなって、この断層パターン6号東へ移動させているので、断層パターンを、
0:09:58	については検討対象外とするとしております。
0:10:02	同様に水位下降側についても、断層パターン7と8を比較して、傾斜角30°-7が大きいので、このナナオ東へ移動させるというような流れにしております。
0:10:15	続いて次のページの118ページ以降をお願いいたします。
0:10:21	こちら118ページから121ページにかけて等想定波源域、こちらの赤枠で示しております想定波源域等、それぞれの断層パターン6と7についての波源モデルの位置関係を整理したスライドになってございます。
0:10:39	この位置関係が前回の資料では明確になっていなかったもので、今回の資料で明確化という観点で、想定波源域の位置を追加してございます。
0:10:49	続いて、
0:10:51	ページ飛びまして344ページをお願いいたします。
0:11:05	ここまでで説明した内容で断層パターン5については東へ日本海東部の東端に移動させる必要はないと考えてございますが、補足検討という位置付けで344ページ以降の2.7.4章。
0:11:21	断層パターン5東へ移動の検討を追加してございます。
0:11:26	こちら検討方針をまとめたスライドとなっております、一つ目の稀概略パラメータスタディのステップ1の1においては、東西方向位置、傾斜角及び傾斜方向に関する検討を
0:11:39	土木学会に基づく段差パターンを実施しております。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:11:43	この土木学会に基づく断層パターンの検討の妥当性を確認するために、断層パターン 5 東へ移動の数値シミュレーションを実施しまして、
0:11:53	それと断層パターン 1 から 8 の最大水位変動量を比較して、断層パターン 1 から 8 の最大水位変動量のほうが大きくなるということを確認するところを検討方針としております。
0:12:07	なおこの断層パターン 5 東へ移動というものについては、さっきから説明しております通り、前回のヒアリングから追加した解析結果という位置付けとなります。
0:12:19	また、断層パターン 5 の東へ移動させ量については、
0:12:23	下段の箱書きに書いておりました、米印の中で、断層パターン 5 東へ移動の上端位置については、想定波源域の東端と一致するように設定しております。
0:12:36	その位置関係が、こちら真ん中に書いております図からわかるかと思えます。こちらの位置に断層パターン 5 東へ移動という
0:12:45	ものを設定してございます。
0:12:48	続いて 345 ページをお願いいたします。
0:12:54	こちらは健全地形モデルを対象として、断層パターン 5 東へ移動の結果と段差パターン 1 から 8 のものの検討結果を取りまとめたスライドとなっております。
0:13:06	こちら表中のハッチングをかけている形成が水位変動量が最大になる形成になっておりましてこちらの表を見ますと、断層パターン合否がC同等というケースについては最大ケースになっておりません。
0:13:21	同様な流れで、
0:13:22	346 ページから 348 ページにかけて、防波堤の損傷を考慮した地形モデル①から③について整理しております。
0:13:33	こちら結論は同様でして断層パターン 5 東医療については差異がないケースにはなりませんでした。
0:13:40	349 ページをお願いいたします。
0:13:47	こちら断層パターン 5 東へ移動の検討結果のまとめのスライドとなります。
0:13:53	二つ目の丸、土木学会に基づく断層パターンの検討の妥当性を確認するため、断層パターン 5 東へ移動の設置シミュレーションを実施しました。その結果として、東医療のケースよりも探査パターン 1 から 8。
0:14:08	その最大水位変動量のほうが大きくなるということが確認できました。
0:14:13	こちら中央に書いております表については、さきに説明した 345 から 348 の結果をまとめた表となっております。
0:14:23	矢印の下側、こちらは結論となりまして、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:14:27	断層パターン 1 から 8 の最大水位変動量のほうが大きくなるというところから、断層パターン 5 東へ移動については、パラメータスタディに反映する必要がないということを確認いたしました。
0:14:40	こちらが断層パターン 5 に関する検討の結論になってございます。
0:14:45	次の議題としまして、170 ページをお願いいたします。
0:15:01	そう 170 ページでは 2.5. 4 章、敷地北側防潮低の損傷による波源選定の確認というところで、こちらの検討方針をまとめたスライドになります。
0:15:13	上段の一つ目のマル。
0:15:15	敷地北側防潮堤については、津波防護施設としないから、しないことから、これらの損傷による影響を
0:15:22	パラメータスタディにより確認しております。
0:15:26	三つ目のマル。
0:15:28	基本地形における地形モデルの妥当性を確認するために、敷地北側誤調定が健全における最大ケースと敷地北側防潮低の損傷状態①から③における最大ケースを比較しまして、
0:15:42	これらの最大ケースの波源選定結果に影響がないということを確認することで地形モデルの妥当性を確認するという検討方針にしております。
0:15:53	具体的には左側、左下の表の中に地形モデル一覧をまとめておまして、この実施書きで書いてある損傷の組み合わせ地形①から⑫というものが敷地北側防潮堤という損傷させた。
0:16:08	地形モデルとなっております。この損傷の組み合わせ地形①から⑫について、右側で示しておりますパラメータスタディなフローとして Step1-1 から Step 4 までを解析して、その最大ケースを選定するというような場流れで、
0:16:27	解析を実施しております。
0:16:29	その検討結果が 171 ページをお願いいたします。
0:16:36	こちら表にございます左側で示しているものが敷地北側防潮堤外健全な場合におけるパラメータスタディの最大ケースをまとめたものを
0:16:46	また右側の表でまとめたものが、
0:16:49	当敷地北側防潮低を損傷させた場合における
0:16:53	それで、パラメータスタディの最大ケースをまとめたものになっております。
0:16:58	この左と右の表の
0:17:01	比較しますと、断層パラメータはそれぞれの同じになっておまして、
0:17:06	上段のテキストボックスに書いております通り健全地形モデルにおける最大ケースと損傷の組あって地形①から③における最大ケースは同一になっているというところが確認できました。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:17:19	続いて 172 から 174 にかけては、
0:17:25	同様な流れで防波堤の損傷状態としてそれぞれ別の所を検討して検討したものをまとめております。
0:17:34	確認した結果としては、敷地北側防潮低を損傷させた場合とさせない場合で選ばれる破面は同一になったというところを、同じ結論としてまとめております。
0:17:47	最後 175 ページのまとめをお願いいたします。
0:17:54	こちら矢印の下は結論になりまして、当波源が同じになったというところを踏まえ、日本海透明に想定される地震に伴う津波な最大ケースについては、現状ある地形を地形モデルとして反映するのが適切であると考えまして、
0:18:10	敷地北側防潮手が健全な場合を基本条件として整理してございます。
0:18:17	ここまでが敷地北側も調定に関する
0:18:20	修正内容主な修正内容になっております。
0:18:24	続いて 272 ページをお願いいたします。
0:18:33	ここからは処理できを下回る時間について説明させていただきます。
0:18:40	272 ページでは検討方針を取りまとめております。
0:18:44	一つ目のもあれ、
0:18:46	ポンプの取水性に最も影響がある波源の選定を目的としまして、取水口における最大水位下降量に着目したパラメータスタディを実施しております。
0:18:59	このパラメータスタディで実施したケースを対象として書類利益を下回る時間を算出し処理できない容量修正可能時間の 7680 日を下回ることを確認します。
0:19:12	また米印で書いておりますが補足検討という位置付けとしまして地形モデルごとにパラメータスタディの評価因子が貯留できを下回る時間に及ぼす影響を
0:19:23	最大水位下降量と貯留できを下回る時間の関係を確認するというところを検討方針にしております。
0:19:30	続いて 275 ページをお願いいたします。
0:19:41	こちら前回のヒアリングから追加した資料になってございまして、水位の時刻歴派遣における朔望平均干潮位の考慮についてまとめております。
0:19:51	こちらは設置シミュレーションにおける初期潮位については平均潮位の TPP 0.21 メーターを用いて解析を実施しております。
0:20:01	二つ目の丸知覧町履歴を下回る時間の確認においては、数値シミュレーション結果から得られる水位時刻歴ハケの初期値が朔望平均干潮位の TP マイナス 0.14 メーターになるように調整して、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:20:17	3号貯留堰の天端高さTPマイナス 4.0 メーターを下回る時間を算出しております。
0:20:23	その考え方の図が中央に書いてあるものになっております。
0:20:28	なお前、前回の9月3日の審査会合時点の値審査会合においては、質疑応答の中で、朔望平均干潮位を考慮していないと当方から説明させていただきましたが、事実確認をしたところ、
0:20:44	もとから朔望平均干潮位を考慮して整理しておりましたので、この朔望平均干潮位の高齢に伴う値の変更を行ったといったものはございません。
0:20:56	また277ページ以降については、前回の資料から大きな修繕をございませんので割愛させていただきます。
0:21:05	ページ飛びまして、318ページをお願いします。
0:21:17	318ページでは処理できましたもので時間の確認のまとめになっております。
0:21:23	矢印の下側結論になっておりまして、書類できま下回る時間については貯留堰の容量から算出される取水可能時間と比較しても十分に小さいということ踏まえると処理でき下回る時間に着目したパラメータスタディを実施した場合においても、
0:21:40	書類を下回る時間はして成果の時間を上回る可能性はないということを確認いたしました。
0:21:47	また米印の補足検討として水位変動量最大係数は概ね貯留できを下回る時間の評価が大きくなればパラメータスタディ評価認証選定していることを確認しました。
0:21:58	また性変動えつと最大水位下降量が大きいケースは貯留堰を下回る時間も大きくなる傾向を確認しました。
0:22:07	次の319から321については地形モデルごとにまとめた結果を一つのスライドにまとめた資料となります。内容については同じですので説明は割愛します。
0:22:21	続いて322ページをお願いします。
0:22:28	こちら②の保守性を考慮した時間の考え方についての説明スライドとなります。
0:22:35	箱書きの一つ目の丸貯留堰を下回る時間のうち、まれに保守性を考慮した時間については0は3年の9月3日審査会合における104秒という値から、今回の説明では最大700秒に変更しております。
0:22:52	その理由については、
0:22:54	例は3年9月3日審査会合における2.4章パラメータスタディと2.5章北海道性法規の東端網羅する検討を統合したことで、検討フロー。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:23:07	パラメータスタディフローが変更されております。そのパラメータスタディフローの変更に伴い、一部の形成が検討対象外になったため、704 秒のケースが
0:23:21	出てこなくなったというところになります。こちら下側にパラメータスタディフローを書いておまして、左側例は 3 年 9 月 3 日の会合のもの、右側が今回説明のフローになっております。
0:23:35	じゃあフローを見ていきますと、ステップ
0:23:38	概略パラメータスタディのステップ 1 の 1 からステップ 2 の 2 にかけては同じですが、Step3 以降の詳細パラメータスタディ以降について変更が生じております。
0:23:49	具体的には 0 は 3 年 9 月 3 日の会合においては、左側の 2.4 章としてSTEP 3 からステップ 4 に下りるようなフローになってございましたがこの赤枠で示している形成については、今回説明では検討対象外になるというところで、
0:24:07	この 700。
0:24:08	検討対象外になるケースとして 704 秒のケースが出てこなくなったというところが理由になってございます。
0:24:17	続いて 323 ページをお願いします。
0:24:24	こちらは今後の方針ということで、貯留堰を下回る時間に着目したパラメータスタディを実施しようと考えております。
0:24:33	一つ目の丸距離的を下回る時間については処理できる容量から算出される施設に可能時間と比較しても十分に小さいことを踏まえると、
0:24:43	書類税金を下回る時間に着目したパラメータスタディを実施した場合においても処理できを下回る時間は社製可能時間を上回る可能性がないことは確認しております。
0:24:54	二つ目の丸で水位変動量最大ケースと貯留堰を下回る時間最大係数というものが完全に一致していないというところをかんがみて、今後書類利益を下回る時間に着目したパラメータスタディを追加実施した上で、
0:25:10	日本海等縁部に想定される地震に伴う津波の最大ケースとして追加する方針に変更したいと考えております。
0:25:19	なお、後段の評価、水路内の水位変動量、水位変動評価においては取水口前面位置における性時刻歴派遣を入力条件とするためその条件に、
0:25:32	より近いというところで①貯留堰を下回る継続時間に着目してパラメータスタディを実施することを考えております。
0:25:41	また、注釈のところ、まれに保守性を考慮した時間については、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:25:46	修正可能時間と比較する観点から算出したものでございまして、その後段の評価となる。
0:25:53	水路内の水位変動評価内容を踏まえると、この貯留できを下回る時間に着目したパラメータスタディの検討対象にしないということを考えております。
0:26:04	また続いて 362 ページ以降をお願いいたします。
0:26:14	2.8 社でまとめの説明となります。
0:26:19	こちらまとめについては各所のポイントを再掲したのになっておりまして、説明内容については、前段の各所と同じ内容ですので今回説明は割愛させていただきます。
0:26:32	また最後に、
0:26:35	すみません戻るんですが 170 ページ、171 ページをお願いいたします。
0:26:44	ここんとは号機の説明になるんですが、表中の一番右側、
0:26:50	の朱書きで書いております敷地北側防潮低の損傷状態③北部なし南部ありについてですが、こちら誤記でございまして、この括弧内で書いてある内容については、北部あり南部なしは正しい表記となります。
0:27:07	こちら 171 ページ以降の
0:27:11	174 ページにかけて同じような大きいですので、そちらは。
0:27:16	次回の会合までには修正して、
0:27:18	させて提出させていただきます。
0:27:21	説明としては以上とさせていただきます。
0:27:32	規制庁タニです。説明ありがとうございました。それでは内容の確認。
0:27:38	それでいいです。
0:27:45	全体的な内容としては前回のヒアリングから特に考え方を変えているわけじゃなくて、説明が足りないところとかをちょっと追加しているっていうような形かと思ってるんですけど。
0:28:00	そんなも大きく何か加え加えた時な方針が 323 ページとかに書かれている。これは何か前回の声ヒアリングから大分なんか考えを改めているというようなこと事思いますけど。
0:28:15	これはあれですかねと。
0:28:21	今後、時間に着目したパラメータスタディを実施しますということでそれはなぜこと言うと、
0:28:31	低下水位下降量変動量だけでは、
0:28:36	変動量だけを見ているのでは完全にまたを下回る時間が長いものと一致しないから、こういったことを今後しますっていうことが書かれていると。
0:28:47	ということで数年で、これ、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:28:53	今のこのなんか方針めいたことが書かれてるんですけど、時間にも着目するんだけどというようなこと書いてるんですけど、変動量にも変動量を今やっているこの結果っていうのは、これはこれで残して水位低下側は変動量も見るC時間も見るっていうような方針でこの文書書かれてるんですか。
0:29:17	当北海道電力の青木です。
0:29:20	これまでの説明としまして、水位下降側については、水位下降量に着目してパラメータスタディを実施してございます。この結果については、当然次回の当パラメータスタディ処理できを下回る時間に着目したパラメータスタディを実施した。
0:29:38	としても、この結果については残していくことを考えております。
0:29:42	それにプラス α という形で処理できを下回る時間に着目したパラメータスタディを加えていくというところを考えてございます。
0:29:51	説明は以上です。
0:29:54	規制庁投入すると。
0:29:58	(5)じゃあ二つに着目してみるってことですね。その時にパラメータスタディするっていうのはあれなんですかね、今やっている加工上昇下降量の上昇量っていうのを見ていたこのパラメータスタディと同じ流れで、
0:30:16	やっていったのでいいんだっていうような考え方で同じパラメータスタディを実施するならここ同じっていうのはですね、項目として同じような内容で実施されるつもりだってことですかね。
0:30:32	北海道電力の青木です。項目としては同じものをパラメータスタディと実施停止することを考えております。具体的には 322 ページ。
0:30:43	お願いします。こちらの右側にパラメータスタディのフロー書いておまして、このStep1-1 からStep4 にかけて発生異変ドレン着目したパラメータスタディと同様に、今度は
0:30:58	等時間に着目して、この流れでパラメータスタディをやるというところを考えております。以上です。
0:31:08	はい。事実関係妥協国にしました。これはあれですね結果が出ないと何とも言えないっていうようなことかなと思うんですけど。
0:31:22	はい。
0:31:23	規制庁ナイトウですけど、ええとね。
0:31:26	何をやろうとしてんのか全然説明切り勤ぼやっとしてわかんないんだけど。
0:31:35	いや、どころなんで差異際低水位を出すものと時間を
0:31:42	長いものと両方やるんですって言うんですけど、それは何でやる必要があると判断したのかもわからないし、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:31:51	何をやろうとされてるんですかね。
0:31:53	目的は、
0:31:55	発電所の発電所の水位種下げ側から取水取水に影響を与える波源を選定するという目的でやるはずなんだけれども、それをやるにあたって
0:32:12	今やっているパラメータで何がわかって何がわからないってことを評価されたんですか。まずそこがよくわからない。
0:32:24	北海道電力の奥寺でございます。
0:32:27	まず時間の
0:32:32	貯留堰の容量等下回る時間の関係の検討というのは、加工の経理マスト指摘事項に対する回答としてこれまで検討してきました。
0:32:46	また他社の状況等も確認しましたがけれども、そういった貯留堰を下回る時間の比較も実施しております。
0:32:57	また、今回この検討の中で確認した確認できたことといたしましては大きい傾向になるんですけれども、水位変動量が大きいケースについては、
0:33:11	大体の傾向として貯留堰を下回る時間も大きくなる傾向があると。そういうことがわかりました。なので、傾向としては水位変動量が下降側が大きいものを選んでおけば大体、
0:33:26	潮流のような貯留堰の容量との比較において、
0:33:32	安全か安全じゃないかっていうところは評価できるのかなというふうには考えておるのですけれども、貯留できは設計の観点かなというような議論をこれまでの議論もありましたので、
0:33:49	そういうところから言いますと、
0:33:51	水位変動量の最大ケースと、
0:33:55	貯留堰か下回る時間の最大ケースというのが完全には一対一にはなっていないと。
0:34:02	そういうようなところを当社として考えまして、
0:34:07	時間の観点からも、一番の水位低下時間が長くなるような波源選定を行うのであれば、パラメータスタディをやるべきではないかというふうに
0:34:22	考えました。以上でございます。
0:34:27	期中ナイトウですけども、いわゆる尾根やったことはそういうことをやってますっていうのはわかるんだけど、じゃあパラスタ等をやった時間と最大、最低水位との関係で何が多かったですか。
0:34:40	そこはやりましたよりますと、っていう資料になっていてという。
0:34:46	何

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:34:48	何がわかったのかが全然書いてないんですよ。入ってるの取水可能時間と比較して十分に小さいことを確認したとしか書いてなくて、
0:35:01	水位を下げる波源等、
0:35:05	水ガス賜る時間が長い波源との関係において、
0:35:12	どういう分析をした結果として何がわかったんですか。
0:35:16	それは予定が入った上で何をやろうとしてるんですか。
0:35:22	北海道電力の奥寺でございます。318 ページをよろしいでしょうか。
0:35:30	318 ページの下の箱書きになりますけれどもわかったことは、まずは
0:35:38	○で書いてあるところですけども、貯留堰の容量から算出される取水可能時間に対して貯留堰を下回る時間が
0:35:50	に余裕があると。
0:35:52	いうことを十分に小さいということがわかっております。他の項目としてわかっているのは※書きしてございますけれども、水位変動量最大係数は概ね貯留堰を下回る時間の評価が大きくなる。
0:36:09	パラメータスタディ評価印象を選定していることを確認してございます。
0:36:14	また、水サイドで最大水位下降量が大きい機器を聴いケースは貯留できを下回る軸力も大きくなる傾向を確認したというところで、ページ移って申し訳ないですけども、
0:36:30	323 ページにももちろんありますけれども、箱書きの中の
0:36:37	これらの今の 300。
0:36:39	18 ページの決事実関係を踏まえまして我々として考えたところは、
0:36:46	323 ページの二つ目の
0:36:49	ポチになりますけれども、
0:36:52	水位変動量最大ケース等貯留堰を下回る時間の最大係数は完全に実施していないと。
0:37:01	というようなことがありましたので、
0:37:04	推移下降量の点でも、安全評価になっているかというところを確認パラメータスタディしていきますけれども、時間の観点でも
0:37:17	一致していないことからそちらのパラメータスタディも行うことによって、両方の評価を行っていかうという方針にしたと。
0:37:26	いうふうに考えてございます。以上です。
0:37:30	規制庁ナイトウですけども、説明になっていなくて、
0:37:36	今 318 ページ税恐竜時期質問時間が貯水可能時間を上回る可能性はないことを確認したって言ってるんだけど、まずこれは何を持って、
0:37:46	確認したんですか。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:37:53	北海道電力の奥寺でございます。
0:37:56	7680 量が貯留堰の容量でございます。それに対して 319 ページに
0:38:06	ケースの最大ケースの一覧を入れてございますけれども、
0:38:11	最大が 700 秒程度等ということで、
0:38:16	注 10 倍以上の容量差があるというようなところから、
0:38:22	パラメータストーリーをこの先、同じような考え方で続けていても、取水堰の容量を超えるような計算で出てこないであろうということをお考えたということでございます。以上です。
0:38:41	こうねっていうところをつく 319 ページの結果を踏まえなのね。だからそんなに考えるのかってのは全然資料上よくわからないんで、じゃあそういうふうに考えますと、といったところと浅い水位変動量が最大になるもの等、
0:38:58	長寿恐竜時期を下回る継続時間が長くなる最も
0:39:03	断層位置の関係はどういう状況になってるっていう評価したんですか。
0:39:08	00 という違う傾向があるから、パラスタをやるんですか、同じ傾向があっているんだけど、念のためやるんですか。
0:39:20	何をやろうとしてんのかよくわかんないんです。
0:39:27	北海道電力のムロタでございます。319 ページをお願いしたいんですが。
0:39:33	これは各地形モデルで取水円筒推移に着目した。
0:39:41	断層パラメーター等潮流できを下回る時間、1/齋場と保守的に見た時間に着目した。
0:39:50	波源を並べたものですね、一番右から 2 列
0:39:56	詰め
0:39:57	2a断層パラメーターの概要を示していますが、上の健全地形モデルで見ますと、
0:40:03	水位下降の最大ケースというのは
0:40:08	マイナス 9.11 になるものですけどこれはアスペリティ位置がD断層パターンなんだ。
0:40:14	はげ値が東へ移動したもので上縁深さ 5kmと
0:40:19	その次の下の行を見てもらいますと貯留堰を下回る継続時間最大係数が、
0:40:27	この時の断層パラメータの今度アスペリティ 1 がcf断層パターンが 6 とTFはげ地学系モデルの基準で上縁深さが 1 ということで、
0:40:38	水位、
0:40:39	に着目した。
0:40:42	波源と時間に着目したものがはげが
0:40:47	ことになってしまっているということで、
0:40:50	しかもこの

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:40:52	まとめは、営推に着目したものから出した。
0:40:58	時間ですので、時間に着目したパラスタをするとまた違う波源が出てくるのではないかということで、先ほど方針でも示しましたが時間に着目したパラメータスタディを実施しようと今考えてるところです。以上です。
0:41:22	周長のナイトウですけども、何ををもってさせないと判断したんですか。
0:41:28	今殺すとやって水位下降5変動量をやったパラスタは結構いっぱいやってますよねそれで
0:41:39	それによる水位下降最大のところを
0:41:44	のものともIAEAパラメータ岩相波源との関係等、今出ているものでやったときの貯留堰を下回る時間と、もう見たときに、
0:42:00	それは傾向がないっていう
0:42:02	どうなんですか。
0:42:04	どういう分析されたんですか。
0:42:09	北海道電力の奥寺でございます。傾向がないかどうかというところで言いますと先ほど申しましたけれども、最大水位下降量が大きいケースについては貯留堰を下回る時間も大きくなる傾向を確認したということで各ケースの
0:42:27	プロットしたものをいろいろ散布図として示している傾向のことでございます。
0:42:33	一方で着目する点としてはポンプの吸い込み位置と水位下降の関係、それと潮流で昨日用量が十分足りているのかと2点の観点が、
0:42:48	ポンプの吸い込みに関しては、関係あるかなと思っておりますけれども、傾向は認められるんですけども、
0:42:59	安全に
0:43:01	例えば、時間の最大ケース透水変量の最大ケースが一致していないというようなことを考えますと、
0:43:11	水位変動量の観点下回る継続時間の観点両方から最大で予測施設なりますけれども、いやそれよりも書いてあることはわかるんだけど。はい。
0:43:23	それから、
0:43:24	一致しないということは傾向かをわかってないんですか。
0:43:29	議案の開拓で拝承最大水平変位量を出すものについて青等をしたものを時間を同じような傾向があると言っているながら、違えますって言うってパラメータスタディわかりやらないとわかりませんという説明して、
0:43:45	何がわかって何かわかんないからどういうパラメータスタディあるなきゃいけないのかっていうのが全然聞いても全然ぴんとこないんですよ。
0:43:53	何をやられる何がわかっていて、何かわかんないんですか。
0:43:57	という評価をされたんですか。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:43:59	では、何がわからないからそれを洗い出すためにパラでスタートをやりますとでパラスタはどういうものに着目したものをやるんです。
0:44:07	ということになるはずなんだけど。
0:44:10	そこが、
0:44:12	何か知らないけどプラスでありますとしか聞こえてなくて、
0:44:17	今やってるやつで、
0:44:19	何がわからないんだっていうところが全然わからないんですよ、説明して聞いてて、
0:44:28	北海道電力の奥寺でございます。経口わかっているのかわかってないのかっていう問いに素直に答えますと、傾向はあると思っております。
0:44:38	なので、水位変動量を再下降量最大ケースを選んでおけば、
0:44:45	水位を下回る時間も大きい方の傾向にあるのではないかというのは、それはそのように考えて、
0:44:52	おりますけれども、わからタニといいます、それから、我々が直面ジェットで我々いちナイトウですけど、今やんなきゃいけないのは、
0:45:04	波源を見つけるっていう行為をやってるんだけど、やんなきゃいけないんだけど、
0:45:09	それに対して、
0:45:12	どうなってんのか全然説明なんですよ。
0:45:18	ちょっと補足していいですか。
0:45:20	規制庁タニですけど、今のちょっと確認っていうのがですね、多分
0:45:28	ほぼ時間に着目した場合に、どっかのステップで本当に本当はチャンピオンになるようなものがどっかのステップで抜け落ちちゃってる可能性があるから、もう1回全部パラスタやってみようかという説明に聞こえたんですけど。
0:45:44	これ具体的には分析されてるのかどうか確認したいんですけど、具体的にはどこのステップで例えばStep1-1 ステップ1の2E-1-2っていうのがあるんですけど、どっかのステップで逆転しそうところがあるっていうふう
0:46:00	御社はこう今思ってるんですかねその辺もうちょっとここ詳しく聞かせていただけたら、もう少し議会進むかと思うんですけど、何かありますか。
0:46:17	北海道電力の青木です。大谷さんがおっしゃってる逆転するケースがあるかどうかについての回答ですが、1例として291ページをお願いします。
0:46:35	こちらは、このケースだけかというところ他のケースもございしますが0というところで説明させていただきます。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:46:42	こちら左三つのグラフ並んでおりまして、それぞれアスペリティ位置を横軸にとって、縦軸に水位下降量①の処理で今日下回る継続時間は②の保守性を考慮した時間というふうにまとめております。
0:46:58	このうち一番左側については、水位下降量に着目しているので性下降量として、
0:47:04	に着目したパラスタの最大ケースが選定されるということは、当たり前というところなんですけど、一方この時間に当水位変動量に着目した点で結んでいる形成については、②の保守性を考慮した時間のところを見ていくと。
0:47:22	アスペリティTFのほうが正と②の保守性を考慮した時間として大きくなっております。
0:47:30	現状ですと、正に着目してパラスタやっていくと、EFのほうが大きくなる時間としては大きくなる可能性があるんですけど、現状ではでいいのものをパラスタとして選定して、後ろのフローでやっていく。
0:47:45	という流れになっているので、今後の方針というところで、時間に着目すると、この漏れてる形成ば拾えていくというところを考えております。
0:47:57	考え方としては以上です。
0:48:02	。
0:48:16	はい。
0:48:17	規制庁なんてですけども、例えば超えるけど 291 ページの例で言って、ちょっとこういうのがあるからでこれを踏まえてどういう、どういう検討しようとしてるのか全然わかんない。
0:48:30	トラストよりもと言ってるだけで、
0:48:34	何をやろうとしてるんですか。
0:49:04	えっとね、こういうのはあまりうちが言う話じゃないけれどね、皆さんは 12 月中に基準津波の方向性をきちんと示したいと言っているスケジュール感は出されていて、その中でコメント回答大沼化でとしていやパラスタ等よりもと言われてるんだけど。
0:49:22	我々としてはパラスタもやらないやらなくても、判断できるような状況であればやる必要はないと思うしやらなきゃいけないのは何でかってことをきちんと説明して欲しいんですよ。
0:49:33	時間とお金をかけて目標としていった時間をさらに後ろに伸ばしていくという判断をするということについて、何を
0:49:44	何を求めなきゃ考えなきゃいけないからこれをやらずやらなきゃいけないんです。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:49:51	それをやるためにどういうパラスタをやるのかっていうのを敷設教えていただきたいんですよ。
0:49:57	プラスによりますプラス等をやりますと、単純にプラスでありますけれども、何をやるのかわからないと。
0:50:06	北海道電力の奥寺でございます。
0:50:09	先ほど大きいから説明した1例がありましたけれども、
0:50:14	時間に着目したところを分析していくと。
0:50:18	傾向としてはピークに近いところ取っているというような
0:50:23	或いはピークを取っている部分もあったりいろんなケースによって誤差はあるんですけど、完全にはピークを取り切れていないと。
0:50:32	というようなところの部分もありましたので、
0:50:36	時間に着目したときにAPこう抑えながら検討していくということで、時間に着目した同じようなパラメータスタディを実施して最大のも、
0:50:52	ものを抽出していくという作業をやるということ 3232 ページにまとめたつもりです。その辺の
0:51:03	もう文言としては蓋ポチ目の水位変動量最大ケース等時間の最大ケースが一時的に一対一で対応してレバー水位最大係数をやってれば大丈夫ですよと。
0:51:18	探し切れませんよということを言えたのではないかと。
0:51:23	考えていたんですけども、完全には一致していないところなので、
0:51:29	時間も独立してパラメータスタディを実施して最大値を探していこうとそういうような趣旨で 323 ページをまとめてございます。以上です。
0:51:47	。
0:51:48	規制庁ナイトウですけども。だからね、結局わからんのだとサエキれてないと考えられるので、
0:51:57	パラスタをやりますっていう話なんだけど。
0:52:01	すごいばくつとした話にしかならなくなってないんだけど、じゃあ分析をした結果として、
0:52:08	どこは傾向が違うんですか、どのパラメータは、
0:52:13	違うんですか。
0:52:17	今のやつは、ほぼほぼ一緒のパターンですよ。ちょっと、ちょっと一番ます違うけれどもほぼ一緒ですっていうことなんですよ。
0:52:36	。
0:52:47	討論皆さん方を判断としてやらないと波源を抑えきれてないと判断をしたということでやられるパラスタを追加でやるっていう判断をされているということだと思っただけども、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:53:03	じゃあパラスタを幾つかのパターンで良いとアスペリティの位置を振ったり、と波源位置で矩形降ったりとかいろいろやっていったりだスタッフ上限深さ降ったりとかいろいろやってんだけれども、
0:53:17	それぞれのところでどういう傾向があって、ここの部分では上昇側のもの等傾向が違ふと考えられてその組み合わせの中で違ふ波源が選ばれる可能性がある。
0:53:34	判断しているから何かやるってことなんですか。
0:53:40	そこって、どういう分析されているのか。
0:53:43	教えてもらえませんか。
0:54:04	北海道電力ヤブですけども、
0:54:10	ちょっと細かいところも御説明させていただいてますがそもそもの命題は
0:54:15	貯留堰があることで下回る時間が
0:54:21	さらに先のほうの審査の中では課題になるけど今は基準津波うち決めることが課題だということで、
0:54:32	通常は水位変動量に着目して、基準津波を選定してますけれども、
0:54:38	チョウキュウ税があるということで、時間に着目した選定が必要だろうと。その時に命題としては今、水位低下量で最大のものを選んできてますけれども、じゃあそれが、
0:54:53	時間に着目したときに本当に
0:54:56	基準津波かわらないのかどうかということが命題として与えられたというふうに認識しています。
0:55:03	それで、例えば細かいところで言いますと320ページの
0:55:08	健全地形モデルの①の貯留堰を下回る継続時間の散布図の中で、
0:55:16	水位変動量最大係数aと左上の赤丸等、貯留堰を下まわる時間最大ケースっていうのは一致していないっていうようなことがありますので、
0:55:29	今、
0:55:31	これまで我々が実施してきてパラメータスタディは、各ステップにおいて、水位変動量が最大もしくはまあまあ最大になるものですね、上昇側下降側含めて、水位変動量が最大になるものを各ステップのチャンピオンケースとして残してフローを進めてきてますが、
0:55:51	その中で、実は時間が最大になるものが水別な水最大ケースが上書きされて、
0:55:59	ピックアップされてないんじゃないかという可能性がやっぱりあるというふうに考えましたので、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

0:56:05	パラメータスタディのフローステップは一緒ですけども、これまで水位変動量に着目してチャンピオンケースを出してきたものを、今度は貯留堰を下回る時間前TPマイナス4メートルを下回る時間が
0:56:21	大きいものチャンピオンケースとして各ステップで拾い上げて、最終的なフローの下まで持っていくと、そういう考えでございます。
0:56:38	はい。
0:56:44	規制庁ナイトウですけども、それから今ヤブさんが言われたのは、それから色調隆起を下回る時間が最大になるケースというのが割と早いステップの段階で出ているんだけど、
0:56:59	それを次のステップでパラスタをパラメータを振るってという行為をやっていないので、これがどういう形で公団ステップによってどういう形で時間が変わっていくのかについて、
0:57:15	今のよう、今の出ている結果の中では判断できないのでここを早い段階で貯留下回る時間が長いケースが出ているものについてはその後段のステップをそれを起点にして、
0:57:33	振っていきたくと、そういうパラスタをやるっていう、そういう説明ですか。
0:58:04	北海道電力のアオキで性を320ページの健全地形モデルの
0:58:10	左側の①取引を下回る継続時間、説明しますと、
0:58:16	①の最大ケースについては、このステップ2の1という青い四角で示したプロットのもので400、
0:58:25	71病棟という結果で出ております。これについては、今推移に着目してパラスタをやってるので、このケースは無視して、ほかのパラスタをどんどんやっているというのが現在の
0:58:39	今のパラスタの状況ですので、今後の方針として水位に着目すると、①で困ったもののさらに右側の時間が大きくなる波源を選定できると考えておまして、そういう観点でパラスタをやると。
0:58:55	いうところが該当となります。以上です。
0:59:03	求め
0:59:04	いや何トラック言いたいことを規制庁においてですけどもわかって早い段階のステップで貯留堰を上下回る時間が長いケースっていうのが出ても、それは今は水理着目しているからそれを高くなる方向になるかどうかということについては、
0:59:23	パラスタをやっていないので、これ、
0:59:28	これをがどう他の進むステップ次のステップなりを踏んでいたときにどう変化するのかが抑えきれないで、今出てるやつは、あくまでも水位のやつでポッ

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

	<p>で見ているからこの部分についてはパラスタの結果として持っていないのでここはどう変化するのかってことについてわからない。</p>
0:59:48	<p>ということですか。だから今分析できているのはステップ 4 までいった中での分析としてはほぼほぼ同じような波源になっているんだけど、</p>
0:59:58	<p>こういうものが存在して 320 ページのような</p>
1:00:03	<p>ステップ 2 の 1 でローン等をツーリズム下回る時間が長くなるようなものについてはこれパラスタしたときにどう置くのかということについてはデータが手元にはないので、これを振ってたら違う波源が出てくる可能性が否定できないから。</p>
1:00:22	<p>これにより、これらについてきちんと終えパラスタをやってDが水位低下時間が長い暴動がどこをどういうものに波源になるのかってことについてきちんと検証することをやるとそういうことですか。</p>
1:00:54	<p>北海道電力ヤブですけど、</p>
1:00:59	<p>例えばその 320 ページの今の散布図で、</p>
1:01:04	<p>右側の①の継続時間で出てくる青い四角の最大係数と書いてあるもの自体はですねこれ自体が、</p>
1:01:17	<p>各ステップの最大水位変動量に着目して、</p>
1:01:24	<p>生き残ったパラスタの中での</p>
1:01:28	<p>時間をピックアップしたというものですので、例えばStep1-1 とかで、</p>
1:01:36	<p>と水位変動量に着目してフロー流してますけどそこをその時点から、時間に着目してフローを流すと違う。</p>
1:01:46	<p>パターンがですね生き残っていく可能性があるかと。</p>
1:01:50	<p>ということなので、ちょっとどのステップでどれが</p>
1:01:55	<p>切られてるかってのはちょっと分析し切れませんが、</p>
1:01:59	<p>頭から実感で流していけば常に最大時間のものは生き残っていきますので、励んが確定できるんじゃないかというふうに考えているということです。以上です。</p>
1:02:19	<p>規制庁タニです。今のこう考えはわかりましたのでそれでちょっとですね資料見ても、またタニなくパラスタしますみたいな宣言のようにとれて何を具体的にこう問題意識を持たれてるのかっていうのがちょっとわかるようにですね。</p>
1:02:35	<p>今説明いただいたようなことをちょっと会合までに整理していただけたらと思いますけどよろしいですかねそれは、</p>
1:02:47	<p>はいどう電力の奥寺でございます。わかりやすくなるよう我々の趣旨が、今の議論を踏まえてわかりやすくなるような内容を整理しようと思います。</p>

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:03:01	はい、お願いします。後ですねこの 323 ページで、私結構よくわかんなかったのがこの * で説明してますね。②の保守性を考慮した時間は、
1:03:14	パラスタの他、検討対象としないっていうふうなことを書いてるんですけど、何かその理由は、
1:03:20	取水可能時間と比較する観点から算出したものだから、
1:03:27	という話なんですね。
1:03:29	でもこれ最後。
1:03:32	例えば、
1:03:33	時間に着目した工数波源を選んだ後は最後何にするかって言ったら取水可能時間と帰国するんですよ。最後この、
1:03:46	この基準津波を策定した後の最後にやることっていうので、何でこの * の話っていうのがよくわからなくて何かどういうことを言ってるんですか。
1:04:04	北海道電力の青木です。
1:04:06	323 ページをもとに説明させていただきますと最終的な評価というところで、この時間に選ばれた最大ケースを用いて、
1:04:17	当資料上で書いております後段の評価というところで、水路内の水位変動評価というものを実施する予定です。この水路内の水位変動評価でな、管路解析に当たりまして、取水炉の中における水位応答
1:04:33	といろいろ確認することを考えてましてその入力条件というところで、取水口の前面位置における水位時刻歴半径を入力することを考えております。そのアウトプット解析結果として、ポンプ位置の水位が
1:04:49	水路内の水位変動評価として出てくるというものになってまして、その入力条件をとかに出てくる結果を踏まえると、
1:05:00	あと①の貯留事故下回る継続時間が大きい形成のものの方がポンプ位置の水位が
1:05:08	ポンプの取水の程度の水位が下がってくるので厳しい評価になるということを考えておりまして、一方このまれに発生を考慮した時間というのはちょっと注意レース、
1:05:21	距離的の天端上回るれかけがございますのでこれによって水位が回復するので。
1:05:26	そういう意味で言いますと、この②については、必ずしも保守的というふうには考えていないというところをこの資料上言いたかったこととございます。
1:05:37	以上です。
1:05:40	規制庁刀禰です。今の説明っていうのは、実際に解析するときには、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:05:46	あれですかね、回復したときに、短周期であっても水がポンってこう上がる等水位が上がるとそこで貯留堰回復するような計算になるから、だから、実際の
1:06:02	解析間LOCA解析水路内の
1:06:05	評価では、
1:06:07	①を使うのか、妥当なんだってという説明ですかね。
1:06:13	確認させてください。そういう公権力オクデラでございます。その通りですが、この①で、
1:06:21	天端位置を下回っている間というのはポンプで吸い込み続けますので、水位低下としては厳しい評価になると考えております。
1:06:32	一方で②については今タニさんがおっしゃったように1回でも水位回復すると、水位が全部ホール回復してしまいますのでまた1から吸い込み直しというようなことになりますので保守的ではないのではないかと考えておりますので、
1:06:48	そういう観点から①で公団のそういう水路内の水位変動評価をする場合には①を使っていくのがよいのではないかと、そういう説明でございます。以上です。
1:07:05	規制庁タニです。なんか私の
1:07:09	記憶違いもあるかもしれないですけどこれ②って、その水位をこういうときに検討する分には困難かちょこちょこした波の話じゃなくって長周期農耕波をちゃんと考えなきゃいけないんだとかそういう話で、何かこういうことをされてたのかなっていうふうに思ってたんですけど。
1:07:26	私の認識違うんですか。
1:07:36	最後に渡って、
1:07:39	指摘事項ですかね。
1:07:43	北海道電力の青木です。指摘事項に残っておりますので、ページで言いますと、6ページを
1:07:53	すみません。7ページをお願いします。
1:07:58	7ページの指摘No.7バー例は元年の9月27日の審査会合において、当社から指摘事項として貯留堰を下回る時間の評価について説明しております。
1:08:13	違う。
1:08:15	中部、
1:08:16	すみません指摘No.8番ですね、失礼いたしました。
1:08:20	下回る時間として、最長時間、これ今の資料で言うところの①の継続時間と同じものでして、と

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:08:29	下回る時間をすべて足し合わせた合計時間という二通りの評価を実施しております。
1:08:35	点について処理できの天端を一時的に上回るはけを考慮しないで時間を算出するなど、
1:08:44	投与量と比較する上で保守的な時間評価を検討することというような指摘を受けたと考えておましてそれに対する回答として、
1:08:52	最長時間は、継続時間という、ちょっと名前改めましたが、その結果を残して、合計時間の代わりに
1:09:00	②の保守性を考慮した時間という評価結果を示しております。
1:09:05	過去の経緯で言いますとこういった評価を
1:09:08	この経緯だとかこういった流れで検討しております。以上です。
1:09:14	規制庁タニですけど。うんってことをですね、コメントNo.8 で、介護で指摘してそれに答えましたっていうのが今までの資料だったんだけど。
1:09:24	今度のもっとじゃあそれを無視するっていう言い方はあれですけど、それを考えないということもコメントNo.8 に堪えない状態になっちゃうってことなんですけど、何かちょっとその辺がもう私がよくわからなくて、
1:09:40	どうなんですかね、これも必要ないっていうふうに御社は考えてるってことなんですけど、②の保守性を考慮した時間っていうのは、
1:09:50	北海道電力の奥寺でございます。答えと答えてないの認識でいいですと、要領との比較に関しては十分に容量は確保されているという結果を指名して、それが答えだと我々考えております。
1:10:09	一方で、同じページの指摘事項7ですけども、貯留堰を下回る時間に着目したパラメータスタディの必要性について検討することという観点では、
1:10:22	ポンプの水の吸い込みという観点でどういう発揮を入れるのが保守的な検討かと考えていったときに、
1:10:33	水位が回復してしまうと計算上、そういう計算になってしまいますので、
1:10:41	①で検討していく。
1:10:45	のが、あのポンプ取水位置での水位低下に関しては厳しい評価になると考えておりますので、今後の7に対する回答通すか検討としては、
1:10:57	①の時間に着目した葉系それが保守的になる波源を探していくというようなことで、
1:11:07	①のパラメータスタディをするという考えでございます。以上です。
1:11:14	。
1:11:18	既設規制庁ナイトウですけども、一旦これ皆さんがやろうとしてることを

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:11:26	ちょっと確認したいんだけど、パラスタとしては、8Kを出してあげる発見のパラスタをやります。
1:11:35	り、それで下回る時間として考えるときには、そのパラスタをもとに、当短周期のものについては止水回復しないとして、
1:11:50	いわゆる保守性を考慮した時間としての設定をしますということですか。
1:12:02	これまでもやってるのは、貯留堰を下回る時間としての、今どのぐらいの精度あるかっていう話はあるけれども、こういう冷凍貯留堰のところでの水位を出してあげて、
1:12:18	パラスタの結果として出してあげていて、それを下回る時間をどうするのかって言った保守性を考慮して短周期のやつは上昇しないとした形でもって時間を設定するっていうやり方を今までもやってるはずなんだけれども、
1:12:33	それと同じやり方をやりますっていうことを
1:12:36	後ろのところは書いてるんですか。
1:12:49	北海道電力のムロタですけれども、今やろうとしていることは、今貯留堰を下回る一般の最大の継続時間、①調理づけを下回る継続時間最大ケースというもの。
1:13:04	やり方でパラスタをしていって、
1:13:09	励んがどうなるかっていう確認をしようとしてますその理由が、今後、結局ポンプ位置での水位を出すときはこの取水口までの生値を
1:13:19	一次元の清涼応答に入力しますので、
1:13:23	①でパラスタとしてってその結果を使って水路内の応答を見ようとしているため、パラスタは
1:13:31	にやっぱ最長のものに着目してやっていこうと。
1:13:37	しているのが今考えてる。
1:13:39	内容です。
1:13:43	規制庁ナイトウですけれども、そうするとに今のを考えた、短周期のものがもう存在するとして水位回復するとして、
1:13:54	やるということですか。
1:14:01	他各電力のムロタですけど、保守性を考慮した時間渡さずに本当の生値で時間を出して、
1:14:10	パラスタをしていくということで考えてます銅縁をパラスタの話じゃなくて、設計をする時にあたっては、投影短周期のものがあればそれは水位回復するとして判断をするっていうことですか。
1:14:29	ムロタですけども、ポンプ1載せようだ際はそのように、
1:14:33	考えてます。途中づけを回れば水路営推は回復するという

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:14:39	特にそのままの生値を入力してポンプ位置の水路水用出そうとしています。
1:14:45	規制庁なんてですけど、そうすると、7番でさっき言ったにも言ったけど、なので言った話についてはやらないということはいいいいということですね。
1:14:56	8か。
1:15:06	天端高さを一時的に上回る発見を講師な時間差思想保守的な時間評価を検討することということに関しては、短周期のものでも天端〇回れば水位は回復するというので、〇やりますというお答えだったということは8に対してはやらないっていう答えっていう
1:15:24	言いいいことですね。
1:15:37	北海道電力オクデラでございます。
1:15:41	単に今はっきり委員角形を
1:15:47	から秒数を出すというようなところは参考として②も検討して数字を見ておりますけれども、一方で、
1:15:57	7のほうのポンプの位置での水位コートの水路応答解析との比較では例えば0にしますと、
1:16:08	明けのなまっ中入れていくことになりますので、
1:16:12	②の評価でも回復した水位の応答がずっと出ていくことにそれを入力していくことになりますので、
1:16:20	分布の位置では、その回復した。
1:16:24	そういう
1:16:25	を考慮した応答になってくるということになります。
1:16:29	ということを考えますと、①で評価していく方が、
1:16:34	水ポンプ位置での水位評価或いは低下時間等に対しては、
1:16:44	水位が低くなっている評価になるのではないかと、そういうような考えで7について①
1:16:52	を強化していくことで考えております。すいません規制庁ナイトウですけども、だから下回る時間としては再就職合計時間1人接種が貯留イズミ展望一時期思われてる時間奥さん数度保守的な時間評価を検討することってなるけれども、
1:17:09	合計時間とかをとらないで、° 淡々にシミュレーションの結果としての水だけで、
1:17:19	判断をします。
1:17:21	ということ。
1:17:23	です。
1:17:24	かネット聞いてたけど、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:17:44	北海道電力ヤブですけれども、ちょっと一部繰り返しになりますが、これまで貯留堰、
1:17:53	下回る時間については貯留堰の容量との秒数の比較ということでやりましたので、そのより保守的な
1:18:03	時間を持って余裕があるというようなことを説明しなさいという御指摘があってその説明は今回の資料にも載っております。ただ、
1:18:15	この段階で、今貯留堰の容量か余裕があるかどうかというのを議論することは、基準津波の選定と関係ないというようなご意見もございましたので、基準津波の選定としては、
1:18:30	まず、3号の取水口を1.01。
1:18:35	その時間を考慮した派遣をやはり選定せざるを得ないんじゃないかと思っております。で、今後、
1:18:41	それ以降の
1:18:44	水路と解析とかをやってポンプの取水位置での水位変動があつてますので、その見込み時間との保守性っていうことを検討するのはその段階ではどういふふうに保守性を見るかという議論になるのかというふうに考えております。
1:19:03	以上です。
1:19:08	いや、規制庁ナイトウですけども、だから、例えば274ページを開いてもらおうと、前説明しているやつがあるんだけど、この左側の時間でしかやりませんということですね、今回の
1:19:24	御回答は、
1:19:31	北海道電力の奥寺でございます。今後追加してパラメータスタディを実施するという範囲は①のみでやろうと考えてございます。以上です。
1:19:46	規制庁ナイトウですけども、
1:19:48	パラスタは今までもう左側のものでしかやっていないって、
1:19:57	でしょ。
1:20:00	0低下量でやってるけど、結果どうパラスタ類継続時間をでやってるっていう評価をするにあたっては、シミュレーションをね出す耐圧で出てきた葉系を見て、
1:20:15	短周期のやつを除いた保守的な時間を考慮したものを
1:20:19	0等見てますという扱いにしたんだけど、
1:20:25	今回のやつ今回ある飲もうパラ名スタートとしては水封明るいうエイト比長くなるような形でもって、この274のように、こういう形で実際のシミュレーション結果として出してあげる。
1:20:44	た上で、例A短周期のものについても考慮するという形を後で+つけ足しますってということ。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:20:53	これはやらないってことですか。
1:20:55	北海道電力の奥寺でございます。これまでやってきたパラメータスタディというのは、水位、
1:21:02	下降側に着目した水位下降側の変動に着目したパラメータスタディを実施しております、下回る継続時間時間に着目したパラメータスタディはやっておりません。
1:21:16	水位変動量に着目したパラメータスタディの全ケースの結果を持ってプロットするとこういう傾向がありますよというのがこれまで説明してきた内容ですが、例えば先ほど散布図などがありましたけれども、
1:21:33	この結果というのは、水位下降側の変動に着目したパラメータ全伝わりの全計装プロットすると。
1:21:44	その経営層の範囲内で下降量と継続時間というのがこういう関係にありますよってということが、傾向としてわかったということでございます。
1:21:53	ただし、パラスタ
1:21:57	一対一で継続時間等下降量の関係が、
1:22:03	合わないところもありますので、今回、
1:22:08	我々が言っているところは、継続時間に着目したパラメータスタディをやりますということで作るそのやる内容というのは①の関係なのか②の観点なのかといいますと、②、
1:22:25	やると水位の回復部分があって、今後やる入力条件としてですね。
1:22:35	あの水位の回復というものが入ってきてしまうと。
1:22:39	このポンプの吸い込みに対して保守的にならないなと考えてございますので素直に
1:22:44	①の
1:22:46	継続時間に着目したパラメータスタディを実施しようと考えてございます。以上です。
1:22:55	規制庁ナイトウですけれども、だから、お答えとしては②のやり方はやらないってということですね。
1:23:03	今回さっきの何ページだっけ、323、3ページに書いてある。
1:23:09	もう
1:23:22	①に着目したパラメータスタディのみをやろうと考えてございます。
1:23:43	規制庁、
1:23:45	規制庁タニですけどその過程において、②ってというのは、今後も計算されるんですか。パラスタの、チャンピオン銀行決めていく段階では①に着目してやりますよってというのは今さっき説明なんですけど。

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:24:00	②っていう時間はもう今後これは扱わないっていう理解でいいのか確認させてください。
1:24:25	。
1:24:26	ちょっと時間も限られてるんで、簡潔にこう答えてくれたらいいんですけど。
1:24:34	まだ予定ないんだったら予定ないっていう、すみません北海道電力の奥寺でございます。
1:24:41	①の観点でパラメータスタディを実施しようと考えてございますけれども、
1:24:47	①、そして、①の結果、訓練パラメータスタディの結果を持って②の観点でもう数字は、参考として整理しようかなと考えてございます。以上です。
1:25:00	。
1:25:02	規制庁タニです。これはあれですねちょっと資料も見させていただきながら、事実関係を確認できました。
1:25:23	はい。
1:25:26	規制庁刀禰です。続いてなんですけれども、
1:25:29	ちょっとあの考え方を確認させてください。これは別に資料の教えてくださいとかそんな言うつもりは全くないですけど、今回のパラメータスタディ評価因子、影響分析ということであれですね東側移動したケースも追加して検討しました。
1:25:48	こういった分析しましたっていうことで、これを通して見てるんですけど。
1:25:54	これって下降側をね、例えばですけど、例えば、
1:26:00	ちょっと上の
1:26:03	204、35 ページとか、
1:26:08	で、花崗岩もう最大水位上昇量で印章分析してますよね。これって
1:26:16	下降量で
1:26:18	上昇じゃなくって、ここの下降側の評価をするときに、下降量で印章分析しないでいいんですかねっていうそのどうしてこれ上昇量でEC分析してるのかっていうちょっと考え方を
1:26:36	教えてください。
1:27:12	はい。
1:27:14	北海道電カムロタですけど、おそらくちょっと誤記だと思われるので確認させていただきます。下降量で評価してたはずだと思いますすみません確認させてください。
1:27:27	規制庁頭にずっとだったらこれあれですかノマイナスってことですか日取り項を
1:27:37	ここ側の辺、

※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:27:39	変化量ではないのかっていうのをちょっと言われて変動量の沿道量ですので、絶対値で今整理してます。なるほど。
1:27:49	ちょっとそれは多分ちょっと、早く確認して答えていただけたらと思いますので、お願いします。
1:27:58	了解しました。
1:28:37	規制庁投入する続けてちょっととどンドン確認していきますけど。
1:28:42	何かパターン含等パターン1を比べた図があったと思うんですけどあれなん何ページでしたっけ、117ページですかね。
1:29:00	116ページですか。
1:29:02	これって、
1:29:05	ちょっとこの説明見てたら、
1:29:08	地形モデル①っていうのを見ると、
1:29:13	パターン5よりパターン1のほうが大きめの水辺上昇量になると、パターン1のほうですねいや要するに西側のほうが大きくなる傾向があるよっていう話をされてるんですけど。
1:29:26	これって、
1:29:28	よくよく資料を見るとの西側もう本当に網羅できてるかっていうような説明ちゃんとしてないですよ、西側について。
1:29:38	これは多分一応もって西側にこうずらしたらどうなるのかとか、そういう
1:29:46	考えとかは、今まで何か考えられてるんですか。
1:29:52	西側は水位が高くなる傾向なのかどうなのか教えてください。
1:30:26	その中の全体的な傾向としてはですね敷地に波源が近づくほど水位上昇量については上がっていくんだというような資料だったと思うので、だから東側の網羅性っていうのですねこれまでも会合で、
1:30:41	指摘してたんですけども、
1:30:45	結論的にはこれ一番東側に寄せたのが、水としては高くなるというのを資料見ててわかるんですけども、この途中段階で、パターン1っていうのはさらに西側に検討するとかそういう
1:31:01	議論はこれまでの中で、御社のほうとしてはなかったんですか、検討されてないんですかという質問ですけど、私言ってるのはわかんないですかね。
1:31:13	北海道電力の奥寺でございます。ちょっと我々も東側に着目して、
1:31:20	検討してきたところもありますので、そういった観点も含めてちょっと検討させていただければと思います。
1:31:30	以上です。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:31:33	規制庁単一あの検討特に市しながら市内今する必要はなくても、これで会合に、基本的には進もうと思ってるんで、追加してお考えがあつてね、言い忘れたので、記入し忘れてるとかそういうことがあるんだつたらそれは記載していただけたらいいんですけど。
1:31:49	検討っていうのは特に求めてるわけじゃありません。
1:31:53	わかりました。
1:31:56	今のところは特にここでこの後で確認してもらおうとしても、ここで答えるようなものはないってことでいいですか。
1:32:07	はいその通りでございます。
1:32:13	すいませんねと規制庁ナイトウですけど、これ 118 ページのところで、
1:32:19	確認したいんですけども、
1:32:22	これね、ゲート 5km 東へもんであつたパターンだと 6 番が十分カバーできているといってるんですけど。
1:32:30	7 番 8 番、
1:32:33	海底面のところではカバーできてるんですか、できてないんですか。
1:33:00	北海道電力オクデラでございます。基本的なパターン 1 から 8 を考えていったときに、最大になる傾向等がある断層下端が 6 棟 7 だと考えております。6 と 7 に着目した場合に、110。
1:33:19	8 ページから 121 ページに至るところに示しましたけれども、十分に網羅できる範囲を検討したということでございます。以上です。
1:33:31	規制庁ナイトウですけどもこの基本想定波源域というのは、地表を
1:33:39	っていうかね、これ 118 ページにあるように耕種角のものを行って考えるという形になっていて、部分もあるはず。6 番とか三番とかは、これは土木学会の手法であるとはみ出す形になってるんですけど。
1:33:59	これは許容しますって話で整理されて設定されていたと認識してるんですけども、
1:34:05	今の説明に言うと、
1:34:11	この漏えい等波源領域として 6 番がはみ出ることを許容するという考えではなくて、6 番の一番東側の部分でカバーできてるかできてないかという考え方で領域を設定しました、そういう考えということですか。
1:34:33	北海道電力オクデラでございます。概略パラメータスタディは、基本の想定波源域に置いて設定する断層パターン 1 から 8 で傾向を使うことということで、
1:34:49	詳細な検討として、
1:34:54	この東日本せた検討で十分青い部分を網羅できる範囲としたと。
1:35:00	そういう検討の構成となっております流れとなっております以上です。

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:35:11	はい。
1:35:12	を含めてきちっとですね、概略どころそうすると概略パラスタのときの考えていき想定波源域を設定するときの考え方とパラスタやるときに考え方は違っているということですか。
1:35:28	北海道電力オクデラでございます。100 ページをご覧ください。
1:35:37	我々のパラメータスタディの考え方としては、外力と詳細の二段階で実施すると考えておまして、概略については支配的因子、詳細パラスタでは、従属的因子、
1:35:51	でやっていくということでその辺の妥当性については、因子の分析のほうで結論を出しておりますけれども、こういった考え方に基づくと、
1:36:01	想定波源域よりも東側に位置する範囲については詳細パラスタで網羅すべきものと考えましたので、右側のフローで言うところのSTEPⅢの中で検討していくものとして、
1:36:17	5kmずつ移動していったって十分網羅できる範囲とそういう考え方で整理させていただきました。以上です。
1:37:25	九州の伊藤ですけれども、本にも説明を刀禰 105 ページで、
1:37:33	ドーン草加トンボ隆起ハイライトなることを許容したということ。
1:37:38	ではないってことですか。
1:37:41	下端分が、
1:37:43	ほぼできるような形で、
1:37:46	領域を設定したってことなんですか。
1:38:18	だから、規制庁で事実確認として所皆さん方来る北海道電力の今の設定を 6 番号青い容器をカバーできるような形で領域を設定。
1:38:33	していることを確認をしているのみで、七、八の東端の海底面からのところが、カバーしてるかどうか見ていないということですかね。
1:38:50	北海道電力の奥寺でございます。沼津想定波源域等、
1:38:55	基本パターンを合わせるということでそこが医薬パラメータスタディの検討で網羅すべき範囲かなと考えております。
1:39:05	詰めは赤い想定波源域を設定する際に我々が着目しているのは北海道南西沖の領域が我々の検討に関して主部だと考えているという、そういうことでございます。
1:39:20	なので、赤い想定波源域の幅を土木学会の基本は 1 から 8 のパターンに合わせてここを規定にパラメータスタディを始めていると。
1:39:33	一方で、一部はみ出している部分があるということは先ほどの支配的因子と従属的因子の話になりますけれども、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:39:42	支配的因子を概略をするパラメータスタディ、
1:39:47	で確認した上で細かい
1:39:50	異動で周部ではないところを網羅する検討として扱ったと。そのような考え方でございます。以上です。
1:40:20	と、
1:40:23	規制庁タニですけど今の主部っていうのもちよつと的をちゃんと説明してもらう支部って何ですか。
1:41:15	北海道電力オクデラでございます。66 ページと 67 ページをご覧ください。
1:41:23	66 ページで南北方向のプランの一番人ポチ目に書いてございますけれども、想定波源域の主部については、
1:41:35	いろんな知見を踏まえた上で、
1:41:38	地震本部の南西沖の評価対象領域と同様な範囲と考えました。
1:41:47	東西方向を設定する際には、3 ポチ目になりますけれども、想定波源域の位置は南北方向の検討を踏まえて、
1:41:58	想定波源域の周部を地震本部の南西沖の評価対象料金と考えていることから、
1:42:05	北海道の南西 5km 評価対象領域の東端を網羅できる位置としたと。
1:42:10	このように考えております。
1:42:12	なので、我々が想定波源域の一部として位置付けた部分というのは、67 ページで言うところの
1:42:26	地震本部 2003 の北海道南西沖の領域と、
1:42:31	ここを起点に、概ね全体を網羅できる範囲等を赤い想定波源域として設定して、
1:42:42	この設定に基づくと、地震空白域、北海道清沖の一部で絡め青い部分がはみ出る部分も出ますので、こちらのほうは、
1:42:54	パラメータスタディ詳細パラメータスタディ網羅する範囲と考えたということでございます。以上です。
1:43:24	規制庁ナイトウですけども、いや、いいんではそういう考え方で設定したということはいいいんだけれども、わかったけども、ところこれを
1:43:34	ロストをやるときに、6 番がカバーできてるかという観点でしか見ていなくて七、八がちっちゃい海底面としての部分でカバーできてるかどうかを見ていないということ。
1:43:49	ですかと聞いたんですけど。
1:43:51	ずらしていったときに、パラスタとしてずらすときにカバーは 6 がカバーできるかどうかというのが早い日着目点で、

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:44:01	7/8 番のパターンが海底面のところで青い領域をカバーしてるかどうかを見ていないということですかね。
1:44:12	これ、
1:44:15	北海道電力の奥寺でございます。想定波源域の領域とアース
1:44:24	あわせる範囲というのが土木学会理由ところの
1:44:28	例えば 105 ページに、赤い図が赤いハッチングの図がございますけれども、
1:44:35	想定波源域の 50km の位置をこの赤いハッチングの位置で基本一応合わせたとこうなったときに、断層パターン 6 と、断層下端スタートだったんすパターン録画はみ出る部分が出てくるのは基本パターンとして共用をしたと。
1:44:53	ということで、この考え方からいきますと、パラスタの範囲と詳細パラスタの管理費として網羅するべき範囲については 6 と 7 が最大だと考えているの 6 と 7 でいきますと 6 については、下端が
1:45:09	一部はみ出しでブルーの部分を網羅する。
1:45:13	それと、7 のパターンについては、上端が多い一部はみ出し底部部分を網羅すると、そのような考え方でパラメータスタディを実施してございます。以上です。
1:45:41	はい。
1:45:43	規制庁ナイトウですけれどもそうすると 120 ページの図は、
1:45:55	これ 7 でカバーしてるって言うてるのか。
1:46:01	北海道電力オクデラでございます。こちらのほうは断層パターン 7 ですので、7 の上端位置で右右端の絵になりますけれども、青い一部はみ出して分を余裕を持って網羅できるように設定したということでございます。東。
1:46:28	はい。
1:46:29	というような交付層の
1:46:35	道路
1:46:39	もうイオンとしていることを
1:46:42	わかりました。
1:46:44	はい。
1:46:50	規制庁タニですと続けてちょっと話題変えますけど、今回、何か 344 ページで、
1:46:58	これ前回もヒアリングでちらっと言ってこれまでの会合で、
1:47:06	回会合に対しての答えがなかったんじゃないですかということで、今回統合っていうの東側へ移動したの作られてるんですけど、これそもそも会合での指摘の趣旨としては 5 の一番深いところを東端に寄せたらそういったそれは、

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:47:26	パターン 5 ですね、それを東端に寄せた様子寄せるそういった波源も、この想定波源域で、この 60° 東側っていうのを考えると、もっともっとよれるような
1:47:41	何て言うんすかね波源も考えられるんじゃないんですかっていうことで、そういった趣旨だったんですけど、これ。
1:47:49	今回、
1:47:50	波源域からこもはみ出して、
1:47:53	こう設定されたっていうのは何でなのかって言うのを知りたいのと、
1:48:01	実はこれって私
1:48:04	資料をこれまでの資料見てみると、
1:48:07	今年の 4 月 21 日のヒアリングでは、
1:48:10	まさにこれ介護出てない資料だと思うんですけど、まさにその
1:48:15	下端部を東端に寄せたときの値っていうのを出してますよね。何で今回
1:48:22	また新しくこの
1:48:25	パターン 5 もっと東まで要請対応の検討されてるのかっていうのが、ちょっと考え方がわからなくて、教えてください。
1:48:42	北海道電力オクデラでございます。この要請方はいろいろ我々のほうでも議論したんですけども、今回基本パターンの 1 から 8。
1:48:56	例えば領域震源を考えたときにこのぶれ幅を考えたら、基本パターン 1 から 8 の検討だけでいいのかっていう趣旨だと考えたときに、
1:49:07	ヤブ 6 が一部はみ出している部分があるところを考えると、
1:49:13	そこよりもおんなじもしくは少しカバーしている範囲を考えることによって 1 から 8 との比較になるのではないかといったときに、
1:49:25	十分カバーできる範囲というのは、と港湾の上端を
1:49:32	基盤の上端に合わせるというような形がよいのではないかなといったことを一つ考えておりますそれと前回のヒアリングで時あの議論を議論といいますか事実確認があったときに、
1:49:47	8 番の裏返しでやるというようなところも一つの考え方ではないかというような議論もあったと。
1:49:56	そういうようなところ、その 2 点あたりでどういったものでどれだけ移動させたほうがよいのかというのを議論した結果で今回の結果を示してございます 1 から、基本は 1 から 8 棟と
1:50:09	十分東に合わせたときに、1 から 8 のほうが大きい小さいかかっていうのを議論するために僕を十分網羅できる範囲ということで今回の移動量に設定したということでございます。以上です。
1:50:22	はい、規制庁投入するちょっと

※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。

発言者による確認はしていません。

※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:50:26	ちょっとすれ違ってるところもあるかもしれませんが、御社としては、何ていうんですかね、指摘からもう一步もう一步奥もう置いと深いところまで検討してみました予定ということなのかなって言うふうに今の説明聞いてて、
1:50:43	思いましただから自主的にもうちょっと寄せてみたとそれはそれで説明聞きますけど、まずはこの指摘の通り、検討されたい。
1:50:56	これもうほら、4月のヒアリングで出てる資料ありますよね。それは変わらないんでしょうか。それも何か合わせて出されたらどうかなと思うんですけどどうなんでしょうか。
1:51:20	北海道電力オクデラでございます。
1:51:23	ような検討ケースもございますので、そのような内容も含めて、資料に盛り込むような若干修正盛り込むような追加するような形で検討します。
1:51:42	はい、丹下です。お願いします。
1:51:47	あとちょっとまた話飛びますけど。
1:51:51	171 から 174 ページですか。
1:51:56	これ前回ほらの有意にっていう言葉を使われてたんですけどちょっと言葉を正しく覚えてないんですけど、
1:52:07	前はなんか
1:52:10	ここに今 171 ページで出してあるの値が比べられてその差がないよっていうような説明をされてたと思うんですね。で、今回は具体的にじゃあこう有効な地形が変わったときに選ばれるものが、
1:52:27	えっと変わらないんだよ健全ケースと変わらないんだよっていうような説明にちょっと変えてるんだと思ったんですけど。
1:52:33	ちょっと私前回の会合では、
1:52:37	この差がどれぐらいなのかっていうのは、補足には探せばいろんなところにこう散らばってあるんだけれども、これがちゃんとわかるようにしてくださいねって言うてるんですね、こういった説明されるのはいいんですけど。
1:52:52	まずちょっとこれ数値としてどうなのかっていうのはですもんちゃんつけてもらって、前はこれはグラフで出てつけてましたよね、グラフでつけてたのが今回外されてるんですけど、あれってグラフじゃなくて何か表か何かで起こるようにしてもらえたらいいと思うんですけど。
1:53:10	この説明はここの説明で必要なんですけど、数値は数値で介護で求めていますよって言うの
1:53:19	わかっていますか。
1:53:33	北海道電力オクデラでございます。前回の会合をもしくはヒアリング等で、
1:53:43	数字を出していたときに、

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:53:48	我々としては数字小さいっていうことを言いたかったんですけども、結局何を説明したかったかといいますと、
1:53:56	敷地北側防潮低の損傷を考慮した場合に、波源選定に影響あるのかないのかっていうようなところが、
1:54:05	メインの議論になったかということで、
1:54:09	規制庁タニですその辺わかってるんですけど、その辺なんでこうしたのかっていうのはわかりますけど、そういう値は数値でどれくらい違ったのかっていうのはですね、それは資料としては必要なのかなっていうのを言いたいです。はい。
1:54:32	数字についても掲載して整理することについて検討いたします。
1:54:44	ゴム
1:54:56	あと規制庁タニですけど。
1:54:59	126 ページ 127 ページに、
1:55:03	地殻変動をどう考えるかっていう
1:55:07	のが何か今回ついてきたんですかね。
1:55:10	これって話。
1:55:12	縁部の評価をするときにはこれ堂々どう使ってるんですが、特に時間、時間の関係低下時間を
1:55:23	考えるときに、こういうことはもう考えなきゃいけないのか考えていないのか、或いは日本海等縁部って地殻変動量通る取りくらの値が出るような
1:55:34	ものなのとか、これはただ単にこれぱっと見せられてもどうどう評価してるのかっていうのが何かよくわからなくてですね。
1:55:44	ちょっと水水位低下時間とかでこれどうやってどう生きてくるのかちょっと簡単に教えてもらっていいですか。
1:56:03	北海道電力のアオキですと 126 と 127 隆起と沈降でそれぞれ全部が違うだけで考え方としては一緒になってます。
1:56:13	まず下回る時間の前の評価というところで、
1:56:17	平面二次元津波解析で水位変動量とか算出しておりますがそれについては、
1:56:23	③左下で書いております。
1:56:26	この平均潮位からの差分というところで、水位変動量の上昇側下降側というものをそれぞれ算出しております。
1:56:34	一方貯留堰を下回る時間の算出においては、ページが変わりまして、
1:56:51	275 ページをお願いします。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:57:01	こちらは、距離的下回る時間においては、もともと解析上平均潮位からの差分で出していたんですけどこちらを朔望平均干潮位に調整して酒をずらしてますのでこのずらせ作業の際に、
1:57:16	当地殻変動量の方も
1:57:19	本当貯留できの天端の高さは沈降とか例利益で変わるんですがその分を
1:57:25	透水側のほうに与えて時間を算出しております。
1:57:31	結論としては下回る時間においても、地殻変動量を考慮して時間を出しているというところになります。以上です。
1:57:42	規制庁タニです。ちょっとそれ考えてるのところを今後行ってるっていうものをいうよく資料上わからなくて、
1:57:51	報告ある今いまここ見たらわかるんですよというのがあったら教えて欲しいんですけどもわかるようにしてもらえたらというのと、これはあれですよね縁部の地殻変動って、それぞれのパターンによって変わってくるんです。
1:58:08	ということですよ。1個1個をちゃんと
1:58:12	ちょっとんごとに遅刻変動量として計算してるっていうことなんですかその辺の手順をちょっと
1:58:18	日医を見ててもわかんないんですけど、ちょっとその辺の事実関係だけ教えてください。
1:58:25	北海道電力の青木です。日本該当縁部について断層パラメータをパラメータスタディとしていろいろ振っているんで、その波源ごとにそれぞれ地殻変動量の値というのは異なっているというところがあります。それについては、
1:58:42	もう一度126ページに戻ってしまうんですが、
1:58:49	このマンション左上の初期条件というところでManshinhaManshinhaandSmylieの方法で考慮してまして、出てきた値というのを、水位変動量側にも与えて、
1:59:02	当時間を算出しているというところで結論としては、その波源ごとに出てくる変動量ってのを、
1:59:09	時間の算出において考慮していると。
1:59:13	という意味合いとなりますと、その点も含めて、資料か考えたいと思います。以上です。
1:59:29	規制庁鳥栖あの送るようにしていただけたらと思う。これちなみに地殻変動ってどれぐらいの値なのか、今わかります一番、一番大きい地殻変動量でどれぐらいだったかとか、
1:59:43	もしわかれば参考に教えてください。

- ※1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

1:59:47	正確な数字じゃないんですがオーダー感としては 230 センチとかそういったところのオーダー感等を考えておりますのでその点についても資料化したいと思います。
1:59:58	以上です。
2:00:01	はい、お願いします。
2:00:58	規制庁投入後ですね、何か一番最初に確認しましたけど
2:01:04	低下時間のパラスタをこれからするされるっていうのはあれ、
2:01:08	どれぐらいの時間のオーダー間で作業を進められてるんですか今のところ、
2:01:15	北海道電力オクデラでございます。11 月 15 日のヒアリングの後に若干口頭説明させていただきましたが、
2:01:28	来年の 2 月ごろに説明が可能なヒアリングで説明が可能と考えてございます。以上です。
2:01:44	規制庁ナイトウですけど、刀禰 370 ページのまとめにね、今後パラスタをやった上で説明をする。
2:01:53	通しているからね白に
2:01:55	ちゃんとスケジュールか入れてもらえますか。
2:01:59	北海道電力オクデラでございます。わかりました。入れ込みます。
2:02:05	今まで出してきた 1 枚紙みたいな形でいつごろっていうスケジュール。
2:02:13	前出したやつを更新した形の形で入れてもらえればと思うんですけど。
2:02:19	北海道電力オクデラでございます確認ですけれども、工程表のようなものを説明させていただいている機会がありますけどそれを 1 枚入れ込むというイメージでよろしいでしょうか。はい。だから少なくともいい現状今まで設計工程として説明してきたよりも、
2:02:35	2 ヶ月ぐらい向こう 2 ヶ月強遅れるっていうスケジュール感ですっていうことですよね。そこはきちんと、資料化して出してもらいたいんですけども。
2:02:46	はい、わかりました。
2:03:02	規制庁タニですね、えっとですね、あとはちょっとロジ的な話になるかもしれないんですけど会合を今月、目指して今調整中なんですね。だから具体的には 24 日とか、
2:03:15	そうなってくると、今検討をするような資料修正っていうのはないと思うんですけど、来週早々とかにですね、資料を出すことが可能か介護多め目指すとするとですね。
2:03:34	うん。
2:03:35	うん、出させていただきたいんですけどどうですかね。
2:03:50	。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。

2:03:56	規制庁タニですけど、来週早々に出せる内容を考えて欲しいんですけど、いかがですか。
2:04:09	北海道電力オクデラでございます。検討させていただきます。早々といいますと、そうそうなんでしょうけれども、どのぐらいの余裕をいただけるものでしょうか。
2:04:24	月曜日 10 だとか、遅くても、火曜日の昼とかそんな感じを早々手渡し使いましたけど、
2:04:34	2 ニシキからの
2:04:39	わかりましたけれども、詳細については、
2:04:43	A社を通して調整させていただけるといっていただければと思います。よろしく願いいたします。
2:04:51	よろしく願いします間に合わなければ我々の今の資料でも介護かけても構わないと思ってますので、よろしく願いいたします。
2:05:07	確認事項は以上にしたいんですけど、何かございましたら北海道電力からなければこれでヒアリングをろうと思いますけどどうですか。
2:05:19	特に今の確認内容以外にはございません。
2:05:24	以上です。
2:05:26	はい規制庁谷です。それでは本日のヒアリング降りたいと思います。お疲れ様でした。

- ※ 1 音声認識ソフトによる自動文字起こし結果をそのまま掲載しています。発言者による確認はしていません。
- ※ 2 時間は会議開始からの経過時間を示します。